

**Figures on flu deaths are misleading, CDC says** Bellingham Herald (米国) 米  
国CDC、インフルエンザ死亡者数は誤解されている 2010/8/27

多くの報告では米国におけるインフルエンザ死亡者数は例年36000人とされているが、この数値は多すぎると同時に誤解されている。CDCが26日発表した。

発行された”疾病率と死亡率週報 (Morbidity and Mortality Weekly Report)”で、実際の平均的インフルエンザ死亡者数は23000人を軽く超える程度と説明されている。しかし、その数値も誤解される可能性がある」と説明している。

理由は、この30年間の実際の死者数は年間3300人から5万人近くと、非常に幅があるからだ。この統計の期間は2007年までで、昨年のパンデミックインフルエンザは含まれていない。

「平均的インフルエンザシーズンなんてものはない」、と報告責任者のデービット・シェイ (CDC免疫と呼吸器国立センター) 博士は記者会見で語っている。

「死者数は年によって劇的に変化する」

死者数は多くの要因で変わり得る：インフルエンザシーズンの期間、感染率、感染対象者。最も重要な要因は流行するインフルエンザウイルス株。

H3N2株が流行すると死者数はH1N1株よりも2.7倍多くなる。

その理由は明確に分かっていないが、一つの理由としてH3N2株の変異が早いことが上げられている。

「H3N2の場合、過去に感染していても、いつでも再感染しうる」

またH3N2はより多くの高齢者を発病させる傾向にある。

シェイ氏によると、36000人という死者数の平均は、1990年代の数値で、流行株は主にH3N2株であったという。

この30年間のデータでみると、インフルエンザ関連死亡の90%近くは65歳以上の高齢者で起きている。約10%が19歳から64歳、約1%が19歳以下となっている。

この数値が最近の豚インフルエンザに関して当惑させる一因となっている。すなわち、豚インフルエンザでは大多数の死亡は、64歳以下の年齢層で起きているからである。

シェイ氏によると、流行するインフルエンザ株を予知することは、インフルエンザシーズンが始まるまで、または始まって2~3週経つまでは困難であるとされる。

「インフルエンザの予知は本当に難しい」、と同氏は語っている。

最善の感染予防は、CDCの感染予防法に従い、そして毎年ワクチン接種を受けることであると、同氏は付け加えている。